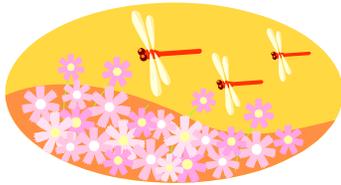


LIFE TIMES

三菱化学物流株式会社
<http://www.mclc.co.jp/>



平成22年11月1日（月）発行 【隔月（年6回）発行】

発行部署 : ソリューション営業本部ソリューション部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4620
発行責任者 : 中島 英男
お問合せ窓口 : 古田 泰幸

第90号

【目次】

1. 菱化ロジテック社 運行管理強化への取り組み
2. 商用車購入時における「エコカー補助金」
3. 高速道路における速度規制緩和
4. 国際間インターネットEDI開始！
5. 衛星場所自慢 海外編③
~Siam Chemical Logistics Co.,Ltd
6. 「国際物流総合展2010」参加レポート
7. 「自動認識総合展2010」参加レポート



1. 菱化ロジテック社 運行管理強化への取り組み

当社の子会社である菱化ロジテック社は、2008年11月に運行管理システム(デジタコ)を導入し、安全運転・エコドライブの徹底に取り組んで来ました。今回は更なる運行管理の強化を図るため、新たにシステムを開発・導入しましたので、事例を紹介致します。

1) 運行効率管理の強化

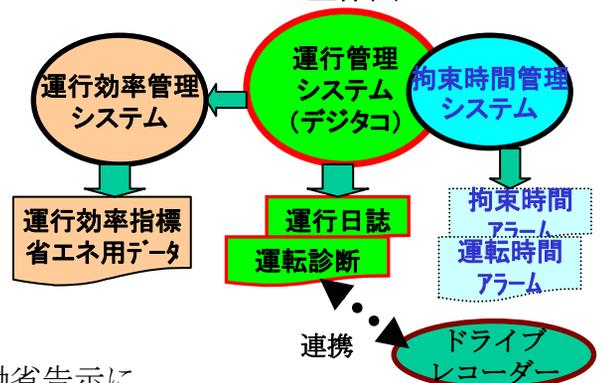
運行管理の良し悪しを表現する指標として、「運行効率」(=稼働率×実車率×積載率)があります。従来の手書きの運行日誌から、これらのデータを作成する事は大変困難な作業でしたが、デジタコの導入を機に、データを自動計算するシステムを開発しました。併せて省エネ実績(トンキロデータやCO2排出量)も把握でき、車両運行改善に貢献しています。

2) 労働時間管理及び安全運転管理の強化

自動車運転者の労働時間については、1989年の労働省告示にて、「拘束時間」「休息时间」「運転時間」「連続運転時間」等にそれぞれの基準が制定されています。従来は、運行日誌を基に手作業で集計・チェックを行っていましたが、運行管理システムに新たに拘束時間管理システムを導入する事で、タイムリーなチェックが行えるようになりました。

また、ドライブレコーダーも一部の車両に設置し、安全運転教育に活用しています。

<システム全体図>



2. 商用車購入時における「エコカー補助金」

政府が推し進めるエコカー普及促進策の「エコカー補助金(環境対応車普及促進事業補助金)」の申請受付が終了しました。同補助金は、もともと、2009年6月から今年の9月30日までに新車登録をしたものが対象でした。しかし、終了間際になって駆け込み申請が相次ぎ、約1ヶ月前倒しで打ち切る形となりました。商用車においても、環境性能に優れた車を購入する場合に最大180万円が交付され、2009年度第2次補正予算で304億円が計上されましたが、国土交通省は9月2日時点で302億円の申請を受け付けたとして、9月3日で受け付けを終えたと発表しました。この機会に買換えをされた事業者の方も多かった事と思います。

また大型トラックは10月以降、現行車より100万円前後高い新しい排ガス規制に適合した車(後処理装置を搭載)しか販売できなくなり、顧客である物流事業者からは価格の低い現行車(販売期間に買えば使用可)の引き合いが強く、補助金と併せての大幅な駆け込み需要が生まれたようです。

さて、国の「エコカー補助金」は終了しましたが、それ以外でも各自治体やトラック協会の補助金も毎年実施されておりますので、是非ホームページ等を参考に購入時に活用してみても如何でしょうか。

1) 自治体によるエコカー補助金

http://www.kankyo-business.jp/topix/ecocar_topix_06.html

例: 福岡県北九州市「低公害車購入助成金制度(2010年度)」締切: 2010年11月30日

2) 全日本トラック協会(都道府県協会)における補助金

<http://www.jta.or.jp/association/todou.html>

例: 東京都トラック協会「2010年度 低公害車の導入に関する補助事業」締切: 2011年1月31日

尚、低公害車以外にも、ディーゼル微粒子除去装置、デジタルタコグラフ・アイドリングストップ支援機器、衝突被害軽減ブレーキ装置、アルコール検知器等への補助が実施されている所があります。

3. 高速道路における速度規制緩和

警察庁は8月、高速道路と自動車専用道路の規制速度について新たな基準を発表しました。カーブの曲がり具合やこう配、見通せる距離など地点ごとの「道路の性能」を調べた上で、現在、最高速度80km以下に設定されている区間を100kmまで引き上げる事が可能となります。

今回の基準見直しは、「規制速度が低く、実勢速度との差が大きい」との声が高まった事を受けて基準の見直しが行われました。これにより、より実態に見合った規制速度に見直す事が可能となり、早ければ年内にも一部で見直しが実施される見込みです。

ただ、法定速度自体は改定されないため、8トン以上の中大型貨物車の制限速度は80kmに据え置かれます。

(社)全日本トラック協会が4月に発表している「2009年度 規制改革に関する要望と結果」には、高速道路における大型貨物自動車の最高速度規制の緩和要望として、大型車とけん引車のみが最高速度80kmに抑えられており、同一の走行車線に速度の異なる車両が混在して走行する事は、車両の安全走行を妨げるばかりか、事故を誘発させる一因にもなりかねないため、スピードリミッターの作動範囲に至らない90kmに引き上げる要望がなされていました。

警察庁から大型車に係る交通事故は、

- ①死亡事故率が普通自動車等に比べて高いこと
- ②高速での事故は重大事故となるおそれが高いこと

等から、最高速度80kmとしている事は合理的であると考え、との回答が記されています。

大型車の速度規制が緩和されれば、輸送にかかる時間が短縮でき、輸送効率化に繋げられる可能性もあり、大型車の速度規制も緩和されることを物流業界では期待しています。

4. 国際間インターネットEDI開始!



当社はお客様からの入出荷、輸配送の指示にデータ連携を推進していますが、これまでもお客様のご期待に沿えるよう様々なパターンに応じてデータ連携を拡大してきました。今回、新たなデータ連携のサービスを開始しましたのでご報告致します。

当社が主に用いているデータ連携はEDI連携です。通常は通信回線に公衆回線やISDN回線を使用し、手順(※)は全銀手順や全銀TCP/IP手順(ISDN回線のみ)を採用しています。

最近ではインターネットの普及で、企業間EDIでもインターネット回線を使用するケースが序々に増えてきています。代表的なものは、お客様のメールに添付されたデータです。また、お客様のweb画面にアクセスしてデータをダウンロードするののも一つの方法であり、弊社ではメールやwebで入手したデータを基幹システムにアップロードする仕組みを構築しています。更にEDI連携で言いますと、本誌でも何度かご紹介させて頂いていますが、XML形式のデータを利用した、化学業界で用いられていますCEDI(Cheical EDI)でのデータ連携も可能です。

今回、外資系企業の日本法人様との取引開始に伴い、海外に設置してあるサーバーと「AS2手順」を用いたEDI連携を開始しました。このAS2手順は先述しました全銀手順が日本国内専用であるのに対し、インターネットEDIの国際標準手順であるため、国内はもとより国際間のEDI連携を展開するのに最適な手順です。また日本の多くの企業でも導入の検討を行っていますので、インターネットを利用した更なるEDI連携の拡大に当社は期待を寄せています。

※日本語と英語で会話ができない事と同じで、データ連携する上でも同じ事が発生します。これを避けるために、細かい規約を定めたものを「手順」といいます

5. 衛星場所自慢 海外編③ ~Siam Chemical Logistics Co.,Ltd

Siam Chemical Logistics社はThai Polyacetal社、Thai Polycarbonate社の物流事業を担う事を足掛かりとして1998年に設立し、現在はバンコク本社&四営業所を構え、社員も107名となりました。

タイの国土は日本の約1.4倍、人口は日本のおよそ半分の6,500万人といわれており、首都バンコクは約700万人が集まる大都市となっています。古くは「シャムの国」と呼ばれ、東南アジアでは珍しく800年の長きに亘り他国からの支配を免れ、華麗な独自文化が脈々と引き継がれています。

荘厳な『寺院めぐり』や『遺跡めぐり』、宮廷用舞踏として伝承された『古典舞踏』、美しく繊細な『工芸品』の数々、他に国防のために考案された『タイ式ボクシング』やインドのヨガと中国のツボ指圧を融合して考案された『タイ古式マッサージ』はその代表です。

当社はタイのメイン輸出入港であるレムチャバン港から程近いシラチャーの地に拠点を設け、主要業務を展開しています。この町はバンコクから南東に約100km離れ、当社日本人スタッフ3名はこのシラチャーという町で生活しています。この町は『タイで日本人が2番目に多い町(勿論1番はバンコクです)』と言われ、現在は約5千人の日本人がこの1km四方の小さな町で生活しており、その中心は近隣の工業団地に進出した日本の自動車関連企業の人達のようなのです。

シラチャーは元々海に面した小さな港町であり、リーズナブル且つ新鮮な魚介類を取り扱うタイ料理屋が沢山あります。(日本料理屋や居酒屋も沢山あります)

注文の際「ペットニンノイ(辛さをおさえてね)」という言葉必ず付け加えてはいますが、結局、タオル片手に汗を拭き拭き……でもこれが慣れてくると結構やみつきに!!

日本人観光客にとってこの町は「バンコク」から「パタヤビーチ」へ向かう通過点の町でしかなく、余りなじみはないかもしれませんが、タイにお越しの際はぜひお立ち寄りください。



アユタヤ遺跡



旧王宮(ワットプラケオ)



タイ民族舞踊

6. 「国際物流総合展2010」参加レポート

9月14～17日、東京ビッグサイトにて『国際物流総合展2010』が開催されました。国内外から計412社の出展があり、来場者は4日間で約12万5千人という盛況ぶりでした。

地球環境問題が大きく取り上げられる昨今、企業としての社会責任が叫ばれる中での今回の展示会は“豊かな未来を拓くロジスティクスイノベーション～環境調和とグローバル化～”を統一テーマとし、出展各社の新しい設備や仕組み等の紹介を多く見ることができました。方向性は“機器のリサイクル”から“省電力化”まで様々でしたが、全般的に「低エネルギー(コスト)・高機能(出力)」という流れの製品が目立っていたように感じます。

当社ソリューション部はお客様の物流効率化のご提案、実行計画の立案を本務とさせて頂いておりますが、このような時代の流れに対応する新たな取り組みにも着手しております。当社が物流解析に使用するシステムツールの一つに顧客分布から見た製品の最適出荷場所(最適物流ルート)を算出するものをご用意しておりますが、従来の「最安価物流ルートの検索」だけでなく、その際の複数各ルートにおける「CO2総排出量の算出」も併せてご提案させて頂けるよう、本年中の運用開始を目標に現在システムの構築を進めております。完成の折には、本誌でご紹介致しますのでご期待下さい。

7. 「自動認識総合展2010」参加レポート

9月15～17日、東京ビッグサイトにて『第12回自動認識総合展』が開催されました。129社が出展した今回は、自動認識技術に求められている「省力・効率」を高める分野だけでなく、社会において人が安心して生活できる「安全・安心」の分野、物流・製造等現場の「可視化」等の分野へも展示の幅が広げられ、同時期に開催された「国際総合物流展」と相互入場可能という事もあり、来場者が3日間で約2万7千人という盛況ぶりでした。

印象に残ったのは、安価なパッシブタグ(電池を内蔵していないタイプのICタグ)を使用しつつ、そのタグを起電させる発信機を複数箇所に配置する事で、レシーバー1台で東京ドーム程度の3次元空間にあるモノの存在と位置をリアルタイムに捉えることのできる、次世代型のRFIDソリューションです。倉庫内の商品管理や人・フォークリフト等の動線管理にも活用でき、更なる物流の「可視化」が期待できるものです。

手軽なものでは、バーコードの代わりに、カラープリンタで赤・青・緑の色配列を印字したラベルを、カメラで映像として読み取り、色の組合せにより個体識別する技術です。実際に、事務所移転における搬出・搬入時の備品等の一括チェックや書類の管理や棚卸等に、使用されている様です。

これらの展示内容に限らず、全体的に、最新技術を使いながらも、コスト面を意識したアピールが多かったのが印象的でした。そういった意味で、自動認識技術の、より一層の利用拡大を期待させる今回の展示会でした。

芝のそよ風

ソリューション部 店網 良紀

2010年のノーベル化学賞を日本人2名の方が受賞されたという明るいニュースが日本中を飛び交いました。ノーベル賞と言えば、やはり思い浮かぶのは表面にアルフレッド・ノーベルの肖像が描かれたメダルではないでしょうか？そして、関連のアイテムとして近年メジャーになりつつあるのが、ノーベル賞のメダルを模したチョコレートではないかと秘かに思っています。このチョコレートはノーベル賞授賞祝賀晩餐会のコーヒーにも添えられる由緒あるお菓子だそうで、ノーベル博物館で販売もされています。お土産として購入される方も多いとの事で、一昨年に受賞された方が、このチョコレートを600枚も購入した事は内外のメディアでも紹介されました。

本物のメダルは無理でも、せめて、チョコレートのメダルくらいは手にしてみたい.....そんな事を思いつつ、秋の夜長を過ごしております。